

人間社会研究科 修士論文 審査基準

修士課程

1. 修了基準について

臨床心理学コース

所定の 34 単位以上修得し、かつ、修士論文の審査に合格しなければならない。

人間行動学コース

所定の 12 単位、選択 18 単位、合計 30 単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格しなければならない。

言語聴覚コース

① 言語聴覚士の資格を有する者は、Ⅱ 専門科目群から 8 単位以上、Ⅲ 専門発展科目群のうち「言語聴覚学（教育研究）」4 単位を含む 14 単位以上、及び修士論文演習 8 単位、合計 30 単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査に合格しなければならない。

② ①以外の者は、Ⅱ 専門科目群から 54 単位、及び特定課題研究演習 4 単位を含む計 58 単位以上を修得し、かつ、特定課題研究の審査に合格しなければならない。（ただし、言語聴覚士国家試験受験資格を満たすには専門基礎科目 33 単位をあわせて履修することが必要。）

言語聴覚コース 1年生短期コース

必修 20 単位及び選択必修 10 単位以上、合計 30 単位以上修得し、特定課題研究の審査に合格しなければならない。（うち、「臨床実習（12 単位）」については実務経験に応じて読替申請が可能。）

実践福祉学専攻

必修科目 11 単位、選択科目 19 単位以上、合計 30 単位以上修得した上で、修士論文の審査に合格しなければならない。

実践福祉学専攻 1年生短期コース

必修科目 11 単位、選択科目 19 単位以上、合計 30 単位以上修得した上で、特定課題研究の審査に合格しなければならない。

2. 審査基準

修士論文・特定課題研究
審査の要点**修士論文**

1. 研究課題は、各専攻、コースの当該領域の視点から明確で適切に設定されている。
2. 当該領域において研究の目的と意義が妥当と判断できるものである。
3. 研究課題における適切な文献が引用され論文の中に位置づけられている。また、盗用・剽窃がなく、適切な文献引用の表示が行われている。
4. 研究課題に対して研究方法は適切に選択され、正確に実施されている。
5. 研究の結果は妥当な方法で分析が実施されている。
6. 考察の論旨の展開が論理的に適切に行われている。
7. 結論は十分吟味され研究課題に答えるものとなっている。
8. 研究における限界点を理解し明記している。
9. 抄録は簡潔に内容を示したものとなっている。
10. 指導教員・コース内の指導のもと、当該領域の倫理基準が遵守されたうえで研究が実施されている。
11. 以上の審査基準に従い、論文の様式等の細則は各専攻およびコースにおいて定める。

	<p>特定課題研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題は、専攻・コースにおける専門領域の視点から明確で適切に設定されている。 2. 当該領域において研究の目的と意義が理解できるものである。 3. 研究課題における適切な文献が引用され論文の中に位置づけられている。また、盗用・剽窃がなく、適切な文献引用の表示が行われている。 4. 研究課題に対して研究方法は適切に選択され、正確に実施されている。 5. 研究の結果は妥当な方法で分析が実施されている。 6. 考察の論旨の展開が論理的に適切に行われている。 7. 結論は十分吟味され研究課題に答えるものとなっている。 8. 研究における限界点を理解し明記されている。 9. 抄録は簡潔に内容を示したものとなっている。 10. 指導教員・コース内の指導のもと、当該領域の倫理基準が遵守されたうえで研究が実施されている。 11. 以上の審査基準に従い、論文の様式等の細則は各専攻およびコースにおいて定める。
--	---

人間社会研究科 博士論文 審査基準

博士後期課程

1.修了基準について	合計 20 単位以上修得し、かつ、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
-------------------	---

2.審査基準	
---------------	--

博士論文 審査の要点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究は国際的な当該領域の学術的な水準（専門性、方法、倫理）を満たしている。 2. 当該領域において研究の目的と意義が理解でき、研究課題の領域に新たな貢献を行うことができる研究である。 3. 博士論文に関連する内容の2本以上の単著または筆頭著者の査読付き研究論文が、学会誌/学術誌に掲載されている、あるいは掲載許可がすでに得られている。なお、原則として大学等の紀要論文は1本までとする。 4. 原則として日本語または英語で書かれている。 5. 原則として、博士論文は当該領域における研究論文3本以上に相当する内容で構成されている。 6. 研究課題における適切な文献が引用され論文の中に位置づけられている。また、盗用・剽窃がなく、適切な文献引用の表示が行われている。 7. 研究方法は適切に選択され、正確に記述されている。 8. 研究の結果は妥当な方法で実施・記載されている。 9. 考察の論旨の展開が論理的に適切に行われている。 10. 結論は十分吟味され研究課題に答えるものとなっている。 11. 研究における限界点を理解し明記されている。 12. 抄録は簡潔に内容を示したものとなっている。
-------------------	--

- | | |
|--|---|
| | <ol style="list-style-type: none">13. 研究領域における倫理基準が遵守されている。14. 以上の審査基準に従い、論文の様式等の細則は別途定める。 |
|--|---|